

行政視察等報告書

2025年2月4日

境港市議会

議長 永井 章 様

会派名 無所属

代表者 景 山



下記のとおり行政視察（調査・研修）を行ったので、その結果を報告します。

記

1 視察等期間	2025年1月29日から31日（金）
2 視察等先 及び内容	○2025年1月29日（木）から31日 3日間開催 △第20回全国地方議員交流研修会に参加した。 △会場 沖縄県 那覇市 琉球新報ホール他 △研修内容・日程他 □1月29日全体会 320人参加 ★記念講演 沖縄県知事 玉城デニー氏 「沖縄・日本を再び戦場にしてはならない」 ★問題提起1 羽場久美子氏 青山学習院大学名誉教授 「戦後80、私たちから平和をつくる ー欧米からグローバルサウス時代へ 沖縄、長崎、広島、全国市民を平和のハブへ」 ★問題提起2 鈴木宜弘氏 東京大学特任教授 「パフォーマンスでは済まされない～限界近づく農と 食の危機」「詰めの甘さ」をどう克服するのか があり、それぞれのテーマに沿って説明を受けた。 また、特別報告として、 ★米軍基地・自衛隊基地に翻弄される沖縄 食料自給を求める自治体議員連盟の報告などがあった。 □1月30日（2日目）分科会のうち ★第1分科会・日中不戦 自治体・議員の役割に参加

	参加議員数 63名 ○分科会での議論に向けて以下の報告があった。 ・沖縄・南西諸島の基地強化の実態 ・全国の各自治体、地域の運動 ・訪中報告 ・日米地位協定抜本的改定に向けた取り組みについて 〔概略〕 ・日中の不再戦に向けての神奈川県綾瀬市議からの活動状況 ・南西諸島での基地強化の現状、紛争時での島民の避難計画に関する実情、日中不戦活動の一環としての訪中活動報告 ・国と地方の関係における問題として 地方自治法改正→「国の補充的指示権」 憲法違反に近いのではないか ・日米地位協定の抜本改定を求める地方からの声 全国知事会でも取り組みがされているが、進展はない ○分科会での、羽田教授のまとめ ・台湾有事より、朝鮮有事の心配がある。 □1月31日（3日目）現地フィールドワーク 辺野古現地視察に参加 参加者 60人 ・沖縄県議会棟前からバスで現地辺野古湾を見渡せる大浦湾に移動。そこから対岸の埋め立て工事がすすんでいる辺野古ををみた。以前より工事が進行している状況であった。 しかし、これまでに様々な事態が経過しているが、軟弱地盤の杭打ちの困難は今後も予想されている事、沖縄県民の長年の反対行動にもかかわらず進行する工事。改めて、状況を確認できた。
3 視察等議員	景 山 憲
4 総 経 費	合計（1名） 114,633 円 （視察当日 資料代金 として） ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
所 見 等	以下のとおり

■ この度の研修会に参加しての所見。

参加した第20回全国地方議員交流研修会は、「二度と戦場にさせない」と平和を希求する県民意思が強く示されている沖縄県で開催された

今日、世界ではロシア・ウクライナ戦争やイスラエル・パレスチナの戦闘の拡大他様々な国・地域で紛争が絶えない危険な状況にあるものと認識している。こうした中でこの研修会に参加し、国際社会の安定に向けて我が国の役割、また、国内、地方においての様々な課題に対して、党派を超えて地方議員も取り組むことが求められていることを改めて認識した。

国内では、食料生産における農業を守る視点、日本の社会保障に係る課題、こどもの貧困の解消、防災、原発問題等多くの課題解決が急がれる状況にある。

全国の地方議員は、その地域の課題解決に取り組むことは勿論、課題に対して全国各地での取り組みを呼びかけるグループも結成されている。

本市の課題は勿論、こうした動きを確認しながら自ら関心を持ち、同一見解が持てる事柄には参画していく必要性を改めて認識したところである。